

## 十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台  
地域火山監視・警報センター

昨日（6月7日）20時20分頃から23時20分頃にかけて、監視カメラで62-2火口付近が明るく見える現象が観測されました。この現象は、高温のガス噴出や硫黄の燃焼等によるものと考えられます。

火口周辺は火山ガスの濃度が高い可能性があります。火口周辺には近づかないでください。  
<噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続>

### ○今回の活動概況

昨日（6月7日）20時20分頃から、監視カメラで62-2火口付近が明るく見える現象が観測され、23時20分頃には雲等のため確認できなくなりました。今回の現象は、高感度の監視カメラによってのみ確認できる程度の微弱なもので、高温のガス噴出や硫黄の燃焼等によるものと考えられます。

火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、地殻変動及び空振データには特段の変化はありませんでした。また、他の火口からの噴煙の状況に変化はありません。

### ○活動評価

十勝岳では、山体浅部が膨張した状態を維持していると考えられ、噴煙高の高い状態、地熱域の拡大や温度上昇、火山性地震の増加など、火山体浅部における活動の活発化を示唆する現象が引き続き観測されていますので、火山活動の推移には注意が必要です。

---

この火山活動解説資料は、札幌管区气象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php))でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、北海道大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情復、第958号）。

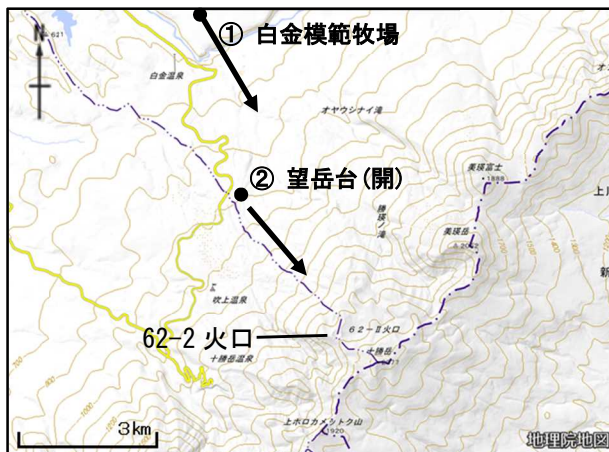


図1 十勝岳 監視カメラ位置図及び撮影方向（矢印）  
（開）：国土交通省北海道開発局



図2 十勝岳 6月7日21時58分頃の62-2火口付近の状況  
上：図1の①より撮影（白金模範牧場）  
下：図1の②より撮影（望岳台：北海道開発局）